雑誌購読料金の計量的分析

－価格，掲載論文数，Impact Factor 値，所蔵館数などの分析を通して－

城山泰彦 (KIYAMA, Yasuhiko)
順天堂大学図書館

Ⅰ．【はじめに】

雑誌の購読料金は，物価上昇率を大幅に上回る値上がりを続けています。順天堂大学図書館(以下，当館)では，2004 年の雑誌購読料金が，図書費に対して飽和状態となりました。予算の大幅な増額が見込めないなか，円高による為替相場に救われた年もありました。そして 2005 年の契約更新を前にして，1998 年に大幅な購読誌の中止で対処して以来 8 年ぶりとなる，大規模な購読誌の見直し等の対策が必要な時期となっています。

しかし一方では，製本業務を担当していると，購読料金の値上がりと対照的に，「薄っぺらくなった雑誌」や「合併号が多い雑誌」が目につくようになった印象があります。

そこで日頃の率直な疑問である，「雑誌は値上がりに値する内容を維持しているのか?」について計量的な検証を行い，さまざまな視点から分析・考察をしてみたいと思います。

Ⅱ．【調査方法・調査項目】

今回の調査では，当館購読誌のなかで以下の期間の全てのデータが揃えられた，399 タイトルを調査対象としました。(2004 年の当館継続購読誌 567 誌のうち 70.1%に相当)

・雑誌購読料金の変化 (当館購読料金 1997 年から 2004 年までの 8 年分)
・雑誌掲載論文数の変化 (JCR 1997 年版から 2002 年版までの 6 年分)
　→購読料金と論文数から算出した論文単価の変化 (1997 年から 2002 年までの 6 年分)
・Impact Factor 値の変化 (JCR 1997 年版から 2002 年版までの 6 年分)
・日本医学図書館協会加盟館の雑誌所蔵館数の変化 (現行医学雑誌所在目録 1997 年から 2003 年までの 7 年分)
・雑誌発行出版社・学会 (2004 年発行時点)

Ⅲ．【調査結果】

上記のデータをもとに，雑誌購読料金の値上がりとの関連について，散布図などを用いて計量的な検証を試みました。全体的な傾向として，購読料金の 180%という大幅な値上がりに対して，Impact Factor 値は 110%と増加，掲載論文数は 98%と微減，所蔵館数は 80%程にまで減少していました。その結果，タイトルによってかなりの差がみられました。その差は“勝ち組”と“負け組”と色分けできるほどの違いがありました。

これらの結果から，全体的に予想以上の割高感が浮き彫りになりました。今回の調査により現状認識をしたうえで，今後考えられる傾向についても言及したいと思います。